

若者は保守的なのか？

——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究 (6)——

東京学芸大学 浅野智彦

1 目的

本報告の目的は、若者が政治的に保守的であるかどうか調査データを用いて検討し、もしそのようにみなし得る特徴があるとしたら、それを規定する要因が何であるのかについて、特にメディアとの関連において、検討することである。2000年代に入る頃から若者の保守化を指摘する議論がなされてきた（山田 [2009]、片桐 [2014]、尾嶋・荒牧 [2018] など）。他方で、政治的には若者が保守化したとは言えないとする議論もある（遠藤・ジョウ [2019] など）。これらが時系列データを用いて若者の経年的変化を論じるものであるのに対して、本報告では一時点のデータを用いて世代間比較を行う。

2 方法

調査とデータの概要については第二報告を参照されたい。本報告では以下の分析を行う。第一に、回答者を30未満の若者とそれ以上の年長者に分け、保守性を測ると思われる質問項目について両者の違いを検討する。第二に、若者のほうがより保守的であるとみなしうる項目につき、その規定要因を重回帰分析により検討する。その際に、メディアとの接触に注意を払う。

3 結果

(1) 二変量関係を見る限り、若年層のほうが年長者に比較してより保守的であるとみなしうる項目は少ない。例えば、日本に対する肯定的態度は若者において有意に低く、中国や韓国への好感度や定住外国人への肯定的評価は有意に高い。ナショナルプライドについては特段の違いが見出されず、女性差別・民族差別については両義的である。憲法改正への態度は、若者においてより肯定的であるが、9条変更や自衛隊明記などについては有意な差が見られない。他方、明確な違いが見出されたのは、安倍内閣支持率および安倍首相への好感度である。つまり若者は、政治的にも社会的にも保守的であるとはいいいくいが、安倍内閣および安倍首相への支持率や好感度は高いということだ。このことは安倍内閣への支持率の高さをもって若者を保守的と形容することの危うさを示している。

(2) そこで安倍首相への好感度を従属変数とする重回帰分析を行う。最も基礎的なモデルとして、以下のような項目を独立変数に投入する。メディアへの接触のうちネット情報への信頼度、政治的態度のうち専門家委任志向および国民意向志向（政治を最終的に決定するのは国民の意向だ）、統制変数として性別・年齢・暮らし向き・学生ダミー。調整済みR二乗値は0.09と小さいものであるが、女性ダミーに負の効果、暮らし向き、専門家委任志向および国民意向志向に正の効果を確認された。すなわち、男性で暮らし向きが良好な、政治は専門家に任せたいと考えつつ、それでも政治を最終的に決定するのは国民の意向であるとする若者が安倍首相への高い好感度を持つ、ということになる。

4 結論

第一に、年長群に比較して若者が特段保守的であるとは必ずしもいえない。第二に、若者において安倍首相への好感度が高い。第三に、この好感度は主に性別・暮らし向き・政治への態度によって規定される。

引用文献

- 遠藤晶久・ウィリー・ジョウ、2019、『イデオロギーと日本政治』新泉社
片桐新自、2014、『不透明社会の中の若者たち』、関西大学出版部
尾嶋史章・荒牧草平、2018、『高校生たちのゆくえ』、世界思想社
山田昌弘、2009、『なぜ若者は保守化するのか』、東洋経済